



■ 保健環境研究センター3月だより

～地域性がみられた A 群ロタウイルス流行（2009）～



A 群ロタウイルス（以下、ロタウイルス）は、毎年晩冬から春先にかけて小児に流行する嘔吐下痢症の主要な病原ウイルスです。1999 年から 2008 年までの奈良県における概要は既に報告いたしましたが（2010 年第 14 週）、今回は 2009 年の状況をご報告します。

患者発生時期は、4 月（15 例：48%）をピークとする 1 月から 6 月でした。G 血清型および患者年齢区分別の発生状況を表に示します。これらの結果は、概ね

過去の傾向と同様です。一方、地域別の観察では、北部医療圏（奈良市および郡山保健所管内）で 13 例のうち G1：10 例（77%）、G3：2 例（15%）および G4：1 例（8%）、中部医療圏（葛城および桜井保健所管内）で 15 例中 G1：4 例（27%）、G2：1 例（7%）、G3：10 例（66%）、そして南部医療圏（内吉野および吉野保健所管内）では 3 例すべてが G1（100%）と、医療圏により大きく異なりました（図）。ひとつの要因として、ロタウイルスの感染様式が飛沫感染ではなく接触感染であることが考えられますが、ロタウイルス流行メカニズムを解明する上で興味ある現象です。

わが国では、まもなく 2 種のロタウイルスワクチンが承認される見通しです。ワクチンの有効性を評価するためにも、詳細な疫学データを蓄積することは我々の重要な任務と考えています。病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体収集にご協力いただきますようお願い申し上げます。

表. G 血清型別・年齢区分別症例数（2009）

G血清型	年齢区分			計(%)
	0~2歳	3~6歳	7歳以上	
G1	12	5		17 (55)
G2			1	1 (3)
G3	9	3		12 (39)
G4	1			1 (3)
計(%)	22 (71)	8 (26)	1 (3)	31 (100)

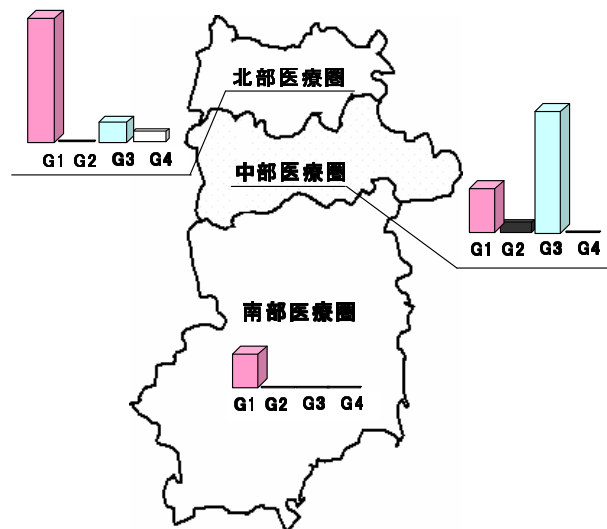


図. 医療圏別G血清型発生頻度

（ウイルスチーム 井上 記）